



錫山地域づくり協議会だより

スローガン「歴史が 人が 地域がつくる
若者が住みやすい 魅力あるまち」

令和3年3月22日 発行
会長 右田幸治 社会教育部部会長 加治 寧

2021年 今年もよろしくお祈りします

2021年は丑年。丑年の特徴は、忍耐強さです。一つのことをコツコツと続けてその道を極めます。何かやると決めたら周囲に惑わされず、自分のペースを守ること、黙々とその道を進み、成果を上げる年とされています。

牛は昔から、農作業や物を運ぶときの労働力として、人間の生活に欠かせない動物でした。仏教が生まれたインドでは、牛は神様として大切にされており、牛には神に近い尊いイメージがあるようです。日本では、学問の神様の菅原道真を祀る大宰府天満宮や京都の北野天神には神様の使いとして牛の像が置かれています。

牛はその勤勉によく働く姿が「誠実さ」を象徴し、身近にいる縁起の良い動物とされています。「神に近い」とされる牛が干支ということならば、やはり、縁起の良い年になることが期待されます。

コロナ感染症に対する心配がなかなか払拭されませんが、錫山地区の皆様にとって、いい一年となることをお祈りいたします。



大好評の「ミニ門松作り」

12月27日(日)。立神館にて、ミニ門松作りが開催されました。この催しは、まだ新しい校区行事で、今回で三回目ではありますが、「ふるさと谷山コミュニティ」の皆様をはじめとして、回を追うごとに参加者も増え、総勢百名程の方々が参加してくださいました。錫山ならではの豊富な天然素材で、家庭に飾れるミニサイズでありながら、お正月気分あふれる作品を、気軽に自作できるところが、人気の秘密ではないでしょうか。

今回は、有志の方制作のちょっと豪華で本格的なミニ門松も販売され、注目を集めました。是非予約販売をとの要望がでるほどの盛況振りでした。



マンリョウのおみやげや温かいお茶のおもてなし等もあり、参加された方々は、門松作りを楽しむとともに、錫山ならではの取組に魅了されたようでした。材料の調達や当日までの準備等、運営に携われた方々には、大変お世話になりました。本当にありがとうございました。

また、27日(日)は、雨の予報が出ていたことから、急きょ予定を変更し、ミニ門松作り終了後、そのまま鬼火焚きのやぐら組みに取り掛かりました。やぐら組みでは、一連の作業に集まってくださった方々の地域振興にける熱い思いやふるさとの自然の中で培ってきた技術のすばらしさを感じられます。鬼火焚きも、数年前から復活した新しい校区行事ですが、ここ数年の経験が生かされ、約一時間半程で、立派なやぐらが組み上がりました。



鬼火焚き



1月10日(日)の夕方5時から鎌塚で、鬼火焚きが行われました。ニュースでは、予定されていた県内各地の鬼火焚きの件数は、前年の半分ほどだったそうです。大半は、新型コロナ感染防止のために中止されたそうですが、人手のかかる行事を維持していくことが難しい所もあるそうです。

錫山では、新年の歩こう会や新年会・新成人を祝う会が中止となりましたが、地域を盛り上げるために、また、鬼火焚きのいわれ

の通り、地域住民の悪疫退散と無病息災を願い、皆様のご協力の下、元気に行われました。冬空に舞い上がる炎に、多くの方々がコロナ感染症の収束を願っていたのではないかと思います。



錫山での思い出「中学校卒業生から」

今年度は、新型コロナウイルス感染症対策のため、中止となった地域行事もあり、子供たちも地域の活動に参加できない状況でしたが、3月に行われた学校の卒業式では、小学生3名、中学生4名がめでたく卒業を迎えました。

子供たちには、卒業しても、錫山での思い出を胸に、これからも頑張ってもらいたいと思います。

***** 中学校の卒業生から *****

私は、生まれた時から錫山で育ったので、卒業するのはとても悲しいです。高校でも、錫山で学んだことを十分活かせるよう頑張りたいと思います。ありがとうございました。

私は、「鬼火焚き」が思い出です。2年生の時は1人で、3年生の時は友達と着火させてもらいました。テレビなどで鬼火焚きを見たことはありましたが、本物の鬼火焚きを見るのは、錫山に来てからが初めてでした。